第４４回日本のうたごえ全国協議会総会

方針

はじめに

「平和で健康なうたを全国民に普及すること」を目的とした私たちの運動は、「人々の生活とたたかいを創造の源泉に」、専門家と協力・協同し、たくさんの歌をつくり広めてきた。それは、日本国憲法の〝平和的生存権〟・いのちとくらしが輝き、国民自身が文化（音楽）の担い手（主人公）として生きる力をつくっていくものでもある。

人間の尊厳さえ奪う今の時代の中で、人間らしく生きる力は切実に求められている。その中でうたごえは昨年も、歌（文化）で時代の閉塞感を切り拓く旺盛な活動を行った。

被爆・戦後６５年の昨年、５月、ニューヨークで開かれたＮＰＴ（核不拡散条約）再検討会議成功へのＮＹ行動に代表団を派遣し、核兵器廃絶・平和を願う世界の人々と平和のうたごえを響かせた。

ＮＰＴ再検討会議成功への核兵器廃絶国際署名・演奏・普及活動を全国で展開し、その運動を国民平和大行進、原水爆禁止世界大会、日本のうたごえ祭典＝長崎成功へとつなげた。

「核兵器のない世界を！　長崎から」をメインテーマに開かれた日本のうたごえ祭典＝長崎にはのべ１１６００人が集い、開催地長崎の高校生らをはじめ若い世代とともに世界に平和と生きる力を発信し、成功させた。

また、「基地のない平和で豊かな沖縄」を求める闘いには、沖縄県民大会への参加をはじめ歌で支援・連帯活動を行った。

わが国では、暮らしを良くしたいと願う人々の期待のもと、一昨年、民主党に政権が交代した。しかし、その後の政治は、労働者派遣法、後期高齢者医療制度、米軍普天間基地問題など後退や迷走を繰り返し、年末に解雇通告された日航の「整理解雇」の強行、関税撤廃で日本の食糧主権も脅かすＴＰＰ（環太平洋連携協定）加盟への動きなど、国民の期働きたくても働く場がない、国民生活が圧迫していく状況は、若者たちの将来の夢も奪おうとしている。

文化分野では、一昨年来の「事業仕分け」など、国や地方自治体の文化予算削減が強行されている。

こうした中で、２３年間の国鉄分割・民営化採用差別反対のたたかいは労働者の粘り強いたたかいと国民世論の中で勝利的和解を勝ち取り、雇用破壊、福祉切り捨てに対する広範なたたかいが生まれている。

「もっと文化を」の署名活動には多くの文化人、音楽家も立ち上がり短期間で６０万筆が集まった。

２１世紀になって１０年、今、世界の平和・核兵器廃絶を求める声は確実に大きな潮流となっている。軍事同盟に加盟する国は、３２ヶ国で世界人口の１６％と少数になり、世界の流れは、核保有から非核の世界へ、軍拡から軍縮へ、軍事同盟から平和の共同体づくりへ、いのちと地球・環境をまもる方向へと向かっている。

２０１１年は、国のあり方と共に、地方のあり方が問われる年でもある。２１世紀の次の新しい１０年へ、平和・くらしをまもる共同・連帯を音楽の輝きで人々の心によびかける活動を、すべてのサークル・合唱団から起こしていくために全国の英知を集めたい。

2010年度　活動のまとめ

２０１０年は次の５点を重点活動としてとりくみ、それぞれ貴重な成果を残すことができた。

第１に　失業、貧困、格差とたたかう人びとと連帯するうたごえを起こし、平和のうちに働き、生きる思いを歌にして広げる。

第２に　「戦争も核兵器もない平和な世界を」のうたごえを長崎・広島、日本から響かせ、５月のＮＰＴ再検討会議の成功に向け、署名、派遣運動を成功させ、平和行進、世界大会につなげる。「基地のない平和で豊かな沖縄」の闘いに連帯のうたごえを起こす。

第３に　９条をまもり生かす運動の広がりの中で、九条の会とむすび、うたごえ、音楽九条の会をつくり、憲法の心を歌いひろげ、「改憲手続法」（国民投票法）の凍結・廃止をめざす。

第４に　地方、産業別の祭典運動、合唱発表会運動を発展させ、被爆・戦後６５周年、長崎での日本のうたごえ祭典を全国の連帯で成功させる。

第５に　以下の日常活動を発展させる

・人びとの願いや思いを歌った歌を創る

・創ったうたを歌い交わし、多くの人にとどける演奏・普及活動を活発にする

・歌の広がりをうたごえ新聞や協議会で結び、うたごえの組織を大きくする

・次代を担うリーダーづくりと学習・教育運動を活発にする

方針〈1〉　人々のねがいを結び、歌いつがれてきたうたを歌い、創り、「みんなうたう会」を旺盛に展開し、〝共に生きる町づくり・地域づくり〟のうたごえを広げる。

全市区町村、わが町・わが暮らしに、世界の羅針盤、平和憲法・九条をまもりいかすうたごえを響かせる。

［演奏・普及活動］

〈核兵器廃絶のうたごえ〉

ＮＰＴ再検討会議ニューヨーク国際行動

２１都道府県から１０６人のうたごえ代表団をニューヨークへ送り出し、国際行動を成功させ、核兵器廃絶の国際世論を高める上で大きな力を発揮した。

各地で署名運動と合わせ街頭や集会で演奏活動が行われ、「歩いて行こう」の歌集と歌が普及された。うたごえの署名はニューヨークの街頭で集めた１１００筆も含め４万筆を越え、日本からは約７００万筆が国連に届けられ、ＮＰＴ再検討会議で「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ことが合意される大きな力となった。

帰国後も、国民平和大行進や原水爆禁止世界大会の取り組みの中で「反核・平和」のうたごえを響かせ、日本のうたごえ祭典＝長崎のステージへつなげることができた。

各地で「反核・平和コンサート」やうたう会、うたごえ喫茶が開かれ、演奏会のテーマに被爆６５年を掲げ、新たな委嘱作品も含め多くの作品が歌われたのも特徴である。

３・１ビキニデーでは、静岡のうたごえ協議会を中心に「海に生きたあなたよ」が演奏されると共に地元焼津市の市民合唱団が出演するなど取り組みが広がった。

原水爆禁止世界大会は、ＮＰＴ再検討会議の成果を発展させ、核兵器禁止条約を実現させようと意気の高いものになった。広島では音楽家ユニオンのブラスアンサンブルと一緒に「原爆を許すまじ」「ねがい」が歌われ、きたがわてつ、ディナ＆アンサンブルニンゲン、佐々木祐慈など文化企画も充実した。長崎では高校生も一緒に「折り鶴」「一本のペンで」が歌われ、参加者を励ました。

〈基地反対・平和と憲法守れのうたごえ〉

沖縄普天間基地移設問題が焦点になる中、４・２５沖縄県民大会、５・１６普天間基地包囲人間の鎖集会では沖縄のうたごえと連帯して全国からも仲間がかけつけ「沖縄を返せ」のうたごえを響かせた。沖縄のうたごえにはその後も演奏の要請が届いている。

全国協議会常任委員会は「普天間基地県内移設閣議決定」に抗議する声明、沖縄県知事選に向けて「アピール」を出し、安保廃棄中央実行委員会の呼びかけによる「意見広告」にも賛同し取り組んだ。

全国でも多くの集会で「沖縄を返せ」「タンポポ」「この勝利ひびけとどろけ」などが演奏された。

佐世保で開催された日本平和大会では開催地の少年少女合唱団やダンスチームの演奏に加え、長崎のうたごえ中心に「平和の旅へ」や「川原の歌」が演奏され、青年企画の寸劇にも関わり、文化が大会をゆたかに成功させる力となっている。

各地の九条の会と共同で「９の日行動」やイベントでの演奏も普及も継続して行われている。全国６カ所で取り組まれた憲法フォークジャンボリーにもうたごえの仲間も積極的に関わってきた。

〈共に生きるうたごえ〉

働く者の職場が奪われ、権利がないがしろにされ、格差と貧困が拡大する中で、解雇撤回や「反貧困」のたたかいにうたごえは勇気を与えてきた。

国鉄分割・民営化採用差別事件は２３年の裁判闘争が和解解決した。国鉄のうたごえと全国のうたごえは、歌を産み出し、歌い広げながらこの「勝利」的和解に大きな役割を果たした。

女性運動、障害者運動、高齢者運動、青年運動などにも積極的に関わり、日本母親大会（福島）、日本高齢者大会（茨城）、全国青年集会（東京）、全国保育団体合同研究集会（岩手）、全国障害問題研究会全国大会（愛知）など全国的な集会の成功に寄与し、運動を前進させる力になってきた。職場や地域、階層の枠を越えた共同の取り組みが広がっている経験も学びたい。

方針で掲げた全市区町村にうたごえを広げることを計画的に進める点ではまだその規模は端緒についたところといえる。「要請があれば歌いに行く」だけではなく、「たたかいあるところにうたごえあり」「要求あるところにうたごえあり」と言われるような運動が求められている。演奏にとどまらず、プロデュース（企画・制作）の点で成果を上げている例も数多く生まれている。

「歌いたい」「つながりたい」要求はさらに強まり、うたごえ喫茶、うたごえ酒場、うたう会はひき続き盛況である。メディアや企業、音楽業界もこの状況に注目し、様々な企画が取り上げられ、うたごえとの共同も広がっている。

［創作活動］

全国の創作活動をさらに活発にし、創られた歌が歌われて人々の心に届いていくよう、創作合宿やオリジナルコンサートを軸に創作運動をすすめてきた。

創作曲が「人をモノ扱いにする儲け第一主義の企業とたたかい、人々の心をつなぎ励ます」大きな力となり、そうした日常の歌い広げる活動からまた新しい歌が生まれ、「私たちの歌も創ってほしい」という声も上がる状況もある。

昨年１月の創作合宿（東京）では、全国から３９人が集まり、事前持ち寄りの曲・詩をもとに当日１４曲が新たに創られた。創作シンポジウムでは、林学作品の魅力や特徴、一節に命をかける創作方法、などが具体的な曲を挙げながら語られ、その後の創作実践にも活かされた。ＮＰＴニューヨーク行動を前に創作合宿に寄せられた詩「Ｗｏｒｌｄ　Ｗｉｔｈｏｕｔ　Ｗａｒ」については、合宿だけでなく、うたごえ新聞紙上でも全国に作曲の呼びかけをした結果、短期間に１９曲が寄せられ、全国各地で作者を中心に歌われていくよう呼びかけた。

１０月のオリジナルコンサートには「Ｗｏｒｌｄ　Ｗｉｔｈｏｕｔ

Ｗａｒ」が４曲も発表されたのを含め、３３団体・個人が出演、４７曲の演奏が行われた。２年目の発行となる「オリジナルソングブック」は、今回発表曲のほとんどを掲載、それも演奏順に収録したことが好評で、出演者以外の聴衆や最後まで残る聴衆が例年よりも多くなった。各地域や産業別の活動においても「オリジナルソングブック」が積極的に普及活用される事が期待される。

各都道府県や地域ブロック、産別でも、多くのサークル・合唱団で創作活動を積極的に位置づけ、創られた曲を演奏し、創り手を励ます取り組みがすすんでいる。東北・創作ネットワークでは毎年各県の創り手の作品を集めた創作曲集を発行（８年目）、北海道、九州では創作合宿を継続中、岡山では創作講座を毎年開催、京都の「うた畑」の活動、愛知では１９７７年以来３４年にわたり、毎年１００ページを超える創作曲集を創作発表会開催に合わせて発行している。国鉄・私鉄・電通・医療・教育・保育・港湾など多くの産別のうたごえでも継続的な創作の取り組みが運動を切り開いている。

また、専門家との協力共同による作品づくりも多くの合唱団で取り組まれ、反響を呼んだ。

今後、全国各サークルや協議会での創作運動の位置づけをさらに高めていくこと、創作合宿とオリジナルコンサートに加え、より多くの人たちが学び高まる創作講習会の開催も望まれる。

方針〈2〉合唱発表会を地方、産業別、全国とも活発にし、歌う活動の実際を交流し、学び合い、創造の前進をめざす場にする。

［合唱発表会運動］

合唱発表会を協議会の年間活動の柱に据え、演奏・講評を通じて交流し学び合うという発表会の原点を輝かせ、広く参加団体を呼びかけるとともに、開催の仕方、運営を工夫し、豊かな交流ができる合唱発表会づくりをめざした。

北陸ではこれまでの合同開催から各県開催を実現し、秋田では東北交流会と連動し合唱発表会を開催するなどで参加団体を増やした。また、未加盟団体への積極的な働きかけによって参加団体を増やしたり、運動の広がりをつくっている経験も数多く生まれている。ブロック交流会への参加を含め３５都道府県、９産業別、１階層、１２７２団体が参加し、昨年を３０団体上回った。

全国合唱発表会は６部門２１３団体（前年比１５団体増）が参加し、豊かな演奏交流を行った。開催地、会場条件、平日開催、同時並行開催、祭典企画などの関連で、聴き合い学びあう環境をつくる点で課題を残した。また、運営面、聴き合うマナーの点でも改善の必要がある。

方針〈3〉地方祭典の全都道府県開催をめざし、日本のうたごえ祭典の長期開催計画を持つ。

［２０１０年日本のうたごえ祭典 in 長崎］

被爆６５周年「２０１０年日本のうたごえ＝長崎」は、「核兵器のない世界を！長崎から」をテーマに、ブリックホールの音楽会２０００人、県立総合体育館の大音楽会４８００人、と合唱発表会、オリジナルコンサートを合わせて３日間でのべ１１６００人の参加で成功した。

音楽会「平和への想いつなぐ　心／叫び／歌」、大音楽会「いのちの歌　ナガサキから世界へ」の２つの音楽会として構成し、「Ｇｒｅａｔ　Ｊｏｕｒｎｅｙ、悪魔の飽食」「干潟の海の詩」「平和の旅へ」の３つユニットを柱に、「龍踊り」はじめ郷土のうたと踊り、「男声のうたごえ・働くもののうたごえ」「青年のうたごえ」「あの子をうたう合唱団」「女性合同」「シンギング・プラザ」「高齢者のうたごえ」等のユニットなど長崎らしい音楽会をつくった。

長崎市長のあいさつで「みなさんがこの同じ場所・時間の中で、観る・聴く人が一体となってこの場をつくっている。それは、一つの平和の

姿だ」とのメッセージを寄せられたが、特に地元長崎の高校生らをはじめ若い世代とともに世界に平和と生きる力のうたごえを発信した。

体育館での音楽会づくりは、音響、照明、舞台装置等困難はあったが、「よく出来てた！」と多くの感想も寄せられているように専門的なスタッフ、要員等の努力により良い舞台作りができた。

長崎実行委員会は、合唱団募集・演奏づくり、終盤での集中したチケット普及で達成した組織、ＮＰＴの署名・募金と合わせた１０数回に及ぶ街頭宣伝活動、電車、宣伝カー、バイク、自転車等市民に広く訴えた宣伝、うたごえ新聞読者拡大、事業等サークル・合唱団全員参加型の取り組みで総合的に成功させた。

こうした開催地の取り組みをこの間の九州のうたごえ祭典で積み上げた創造的連帯と全国の創造的・組織的連帯活動が支え、祭典を成功させた。

［地方祭典］

サークル・合唱団が連帯し、様々な運動と共同し、音楽愛好家・専門家と共に作り上げる「うたごえ祭典」の役割を輝かせ、祭典運動の前進をめざした。

各地を持ち回りで開催している北海道では３廻り目を全国医療のうたごえ祭典と合同で函館で開催した。運動の蓄積、創造的連帯の蓄積が持ち回り開催を可能にしている。

山形では４４回を数える祭典を開催。ゲストにＤ５１合唱団を招くなど、広がりを見せている。長野では第５４回信濃のうたごえ祭典を千曲市で開催。日本のうたごえ祭典全国合同曲を取り上げるなど全県で全国に連帯した取り組みになっている。広島では、日本のうたごえ祭典＝ひろしま（０５年）後の広がりを結集した祭典を開催した。

地域祭典では大阪北部が５年ぶり２回目、京都が１３地域、東京・足立（毎年開催）で開催され、地域のうたごえ運動の裾野を広げ、創造的連帯の場となり、ともに歌う仲間を増やす絶好の機会となっている。

［産業別祭典］

職場のうたごえの全国的な交流と共に、職場の現状に切り込み、そのたたかいを励まし連帯する力とする産業別のうたごえ祭典・交流会が、私鉄（大阪）、港湾（京都）、教育（岐阜）、自治体（東京）、国鉄（宮城）、電通（東京）、保育（東京）、医療（北海道）、郵便（大阪）で開催された。いずれも開催地のうたごえ協議会が連帯し成功の力になっている。国鉄祭典は宮城のうたごえと、東北ブロックの連帯で１３００人の大音楽会など大きく成功した。教育祭典開催地の岐阜・多治見では、地域への広がりや青年が実行委員会の中心で活躍するなど、産業別祭典開催を契機に県・地域のうたごえの活性化にもつながっている。

第１０回大阪自治労連のうたごえ祭典が２年ぶりに開かれ、職場の要求と組合員の生き生きした姿をうたごえで交流した。

年毎にうたごえの現役労働者が減っている状態が多い中、新たな会員を迎えながら活動を広げ、祭典に参加している職場サークルにも注目したい。

国鉄と私鉄が合同で祭典を開催する準備が始まり、名古屋では４つの産業別祭典を連帯して成功させる準備が始まるなど、産業別のうたごえの新たな発展方向の模索が具体化してきた。

方針〈4〉歌の広がりをうたごえ新聞読者につなぎ、豊かな“うたごえ発ジャーナル”を確立する。

［うたごえ新聞・季刊「日本のうたごえ」

うたごえ新聞は昨年度の読者拡大の成果のもと、２０１０年は月１回のカラー化が実現し、読者から好評を得ている。

被爆・戦後６５年の２０１０年、編集は、長崎で開催の日本のうたごえ祭典、ＮＰＴ再検討会議ＮＹ行動成功へ、〝うたごえは平和の力〟を大きな柱に、いのちと暮らし、憲法の心を輝かすうたごえ発文化発信にあたった。

長崎からは、新年号の田上長崎市長へのインタビュー、高校生一万人署名活動をはじめ、長崎の文化・平和活動を多面的に伝えた。また、取材をきっかけに、高校生１万人署名活動の高校生らと祭典テーマソング「一本のペンで」が生まれたことは、運動の機関紙、うたごえ発ジャーナルとして貴重な足跡を残した。

インタビュー他、運動への提言も含め、文化行政にも積極的に行動のピアニスト中村紘子さん、ベルリンフィル・首席チェリスト、ピアニスト遠藤郁子さん（ショパン生誕２００年連続演奏会）、二宮厚美、佐藤光雄、森村誠一、芹洋子、佐々木祐滋、伊藤千尋ら各氏の登場。「韓国併合」１００年の年、埼玉合唱団の訪韓公演、「『韓国併合』１００年とＮＨＫＴＶドラマ『坂の上の雲』」（中塚明）などを特集した。

また、年間約１０００件の通信が全国の運動を豊かに伝えた。特に、反貧困・年末相談会〝連帯フェスタ〟のとりくみを伝えた埼玉のうたごえ・小山真理子さん、兵庫の保育士の大牟田訪問から「安保・三池５０年　荒木栄と三池闘争」の福岡・久後勝幸さん、中国の「外国人研修生」未払い賃金勝訴の闘いと歌を伝えた熊本・内山幸夫さん、「歌でふくらんだ中国プライベートツアー」東京・小永井万知子さんらの通信は、報告に留まらない深い運動へのアプローチとなった。

編集部と読者がともに紙面を作る運動としての〝うた新まつり〟・〝うた新フォーラム〟は、全国規模で行った３月の長崎をはじめ、奈良、東京、京都、神奈川（藤沢、全県）、千葉で開催。

事業・普及活動をみんなのものにと新連載「土屋美和（音楽センター）のスポットライト」も好評である。

全国の多彩な活動を豊かに交流し、運動の輪、読者の輪を広げるために、〝読み・作り・広げる〟活動をさらに強める必要がある。

季刊「日本のうたごえ」は今年度は№１４７～１５０を発行。年間を通して被爆・戦後６５年、「長崎を最後の被爆地に」、日本のうたごえ祭典＝長崎を軸に企画。各号のメイン企画は№１４７は、全日本合唱連盟理事長浅井敬壹氏と作曲家池辺晋一郎氏、高橋正志日本のうたごえ全国協議会会長の新春鼎談で合唱・音楽を通しての協同と展望を探った。№１４８は全国総会特集――記念講演「憲法の平和的生存権　出番の２０１０年」（二宮厚美）と全総会発言。№１４８は、高草木博氏（ＮＹ行動企画・提唱、日本原水協事務局長）を中心に「ＮＰＴ・ＮＹ行動が果たしたもの、そしてこれから」座談会。№１５０は、「日本のうたごえ祭典＝長崎を終えて」と同合唱発表会批評座談会を特集。

連載も好評だが、運動構成人員からみても普及強化が求められる。

方針〈5〉うたごえ出版物をより多くの人にひろめる。

［事業・普及活動］

事業・普及活動は演奏普及活動と共にうたごえ普及の大切な取り組みで、様々な集会やイベントを豊かに成功させるためのプロデュース活動も合わせて位置づけ、１０年度は「事業・普及部」を新設して「すべての加盟団体に事業担当を」「うたごえが係わる全ての取り組みに事業活動を」と取り組んできた。

この間、音楽センターとうたごえ合唱団・協議会が制作も普及も共同ですすめる「参加型」の取り組みを重視し、一昨年国鉄のうたごえと共同作成ＣＤ「連帯」に引き続き、広島のうたごえとの共同で山ノ木竹志ＣＤブック「歌わずにはいられない」が制作され　全国で普及されている。韓国強制併合１００年訪韓公演、埼玉合唱団との共同制作ＣＤ「クナリオミョン～その日が来れば～」も好評である。北海道・東北のうたごえとの共同制作ＣＤ「みんなで歌うロシアの歌」（仮称）も大きな「参加型」として準備が進められている。

全国的な取り組みとしては、ＮＰＴ・ＮＹ行動への派遣運動とむすんでの歌集「歩いて行こう」が各地で歌う活動と共に普及された。

「１０年メーデー歌集」は３２２０４冊普及、昨年比２８００冊減となった。　労働組合・メーデー実行委員会への申し入れ活動と共に、メーデー歌う会、メーデー前夜祭などの「歌う機会」を重視し、改善していくことは引き続きの課題である。

「２０１０年日本のうたごえ祭典＝長崎合唱曲集」を活用して、歌って参加に取り組み、祭典の成功の力になった。

音も楽譜も普及の媒体が大きく変化している。音楽センターはホームページも改善し、「うたごえ楽譜」のネット配信・メールマガジンの発信なども始まった。今後さらに充実させていくことが求められている。

アーチストの商品としては、若手の北川翔のＣＤ「バラライカ」はうたごえ内外の注目をあつめ、合唱団演奏会のゲストにもよばれている。

きたがわてつミニアルバム「グローバル・ゼロ」を発売し、「憲法サポーターズ１０００人募集」「輝け日本国憲法全国１００回コンサート」の取り組みとあわせ普及されている。

キングレコードから発売されたＣＤ「歌声喫茶」５枚組は大好評である。

各合唱団演奏会のＣＤ・ＤＶＤも多く出版された。

方針(6)演奏・創造を発展させ、また、運動の理念を受けつぎ発展させる学習・教育をすすめ、次代を担うリーダーづくりを計画的にすすめる。

〔学習・教育活動〕

各地で県内講習会やブロック講習会、うたごえ学校等が行われ、専門家による指導や協力、協同も進んでいる。特に北海道、九州では地方講習会として定着し、地域祭典や全国祭典の力にもなっている。大阪指揮研究会、東京指揮考座、関西合唱団日曜講座などの継続した取り組みは、学び成長しあう場として貴重な経験を生み出している。また、団内研究会なども演奏普及の担い手を増やす上で重要である。

全国合唱講習会は３カ所で行われた。東日本（山形９７人）では、合唱・指揮など演奏創造の多面的な要素を講師と共に学びあい有意義であった。中日本（名古屋１１４人）では、祭典合同曲の合唱を深めると共に、開催地愛知の到達を声楽・創作・創造の面から学びあった。特に浜島康弘氏の講演は、故林学の功績と合わせ〝今、うたごえに求められるものは〟など、示唆するものは大きい。西日本（福岡１５３人）では、日本のうたごえ祭典＝長崎を全九州の連帯で成功させようと、祭典合同曲の合唱、星野恵利さん（祭典ゲスト出演者）による発声指導、「平和の旅へ」と祭典への想いの話など、祭典を創造的に進める大きな力となった。

全国指揮・合唱指導講習会（松本８５人）は２５回を数え、コース別指揮法、指揮特別講座、合唱特別講座と内容が定着し、スタイルは変わらないがその充実度は年々増している。指揮受講者だけでなく合唱参加者にも得るものは大きく、継続的な参加者は成長も著しい。新しい指導者・リーダーの育成を視野におき、合唱団としての積極的な参加運動も大切である。

日本のうたごえ合唱団２０１０は１７０人で結成され、新春合宿と東西の練習会を経て、日本のうたごえ祭典＝長崎では〝音楽会〟に出演し、優れた演奏を示した。自主的な参加による全国合唱団だが、実践的な教育の場としても得るものは多い。

日本のうたごえ祭典＝長崎における合同曲の演奏は、九州のうたごえの連帯活動を軸に各地で練習会が行われ、質の高い演奏を生み出した。全国的な演奏参加の面では、登録活動、練習計画など課題を残した。さらに意識的な活動が必要である。

うたごえ運動の創造理念、何を、誰に向かって、どう歌うか、など合唱発表会講評、専門家の指摘等にも示唆に富む内容が多い。専門音楽家による指導、指揮なども多く見られる中、さらに協力、共同を進めるとともに、うたごえ運動における創造の特徴、良さ、欠点、その意義、など

も幅広く学習を深めていく必要がある。
学習・教育活動をさらに充実させる上で演奏会、講習会などの情報交換、指揮者・指導者の問題意識の向上・交流など、指揮者・指導者ネットワークづくりが必要になっている。

方針〈7〉青年の要求に応えた音楽づくり、青年サークルづくりを積極的にすすめ、次代を担う青年をたくさん迎える。

［青年のうたごえ］

ＮＰＴ再検討会議ＮＹ行動に参加した１０６人のうたごえ代表団のうち、２２人が２０代・３０代の若手であったことは、青年のうたごえの蓄積と、送り出したサークル・合唱団の期待がある。その期待に応え、ＮＹ行動の体験を通して大きく成長を見せている青年も少なくない。また「次は青年のうたごえ祭典で会おう！」「次は原水爆禁止世界大会で」「今度は長崎で！」とＮＰＴを起点に連続性を持った１年間になったことも特徴的だった。国民平和大行進では青年のうたごえにも関わっている新劇人会議の大越文さんが通し行進者として参加したことも、全国の青年がつながりながら取り組むきっかけになった。また、これらの行動を含め、全国各地で歌い広められた「歩いて行こう」は２０１０年日本のうたごえ祭典＝長崎の青年合同曲にもなり、諸行動と祭典をつなげる役割を担うとともに、青年たちの「歌でつながりたい」という要求を掘り起こした。長崎では青年のうたごえサークルが確立されていない中で、子ども劇場の青年たちを中心に、手探りながら一歩一歩ステージを創り上げた。この青年たちを、長崎のうたごえの未来へとつなげたい。
全国青年のうたごえ祭典＝あいち「とぅぎゃざーうぃずあす☆彡」は、愛知県内の青年団体や民主団体、労働組合とこれまでのつながりに加え、新しいつながりを生み出し、祭典を創り上げる中で、青年たち自身が「うたごえ」について問いかけ、学び、実践した。青年のうたごえ合唱発表会は全国の活動を反映して、参加団体数、演奏内容共に充実してきており、日本のうたごえ祭典への参加を促進している。
２００９年日本のうたごえ祭典・京都での青年のステージから、地元京都の青年が多く洛北青年合唱団の研究生になり、修了後そのほとんどが入団したことは、祭典の大きな財産といえる。２０１０年教育のうたごえ祭典＝多治見を中心となって成功させたのは、２００８年全国青年のうたごえ交流会＝ぎふに取り組んだ岐阜の青年たちだった。「若者が成長する場所・うたごえ」という信頼を、うたごえの外からも得ることができれば、それは若い歌い手を組織する力にもなる。この数年で成長した青年たちを教訓にしたい。

方針〈8〉サークル・合唱団をつくり、大きくし、うたごえ協議会の強化と建設をすすめる。また、ブロックの連帯活動を活発にするため、ブロック連絡会づくりを強める。

［組織建設］

魅力的な演奏会や旺盛な日常演奏活動、うたごえ喫茶の広がりなどの普及活動が「うたいたい」「つながりたい」の要求と合致し、多くの団体で会員を増やしている。また、継続した研究生制度や合唱講座の開催、ともに歌う市民合唱団の組織から会員増に結びつけている団体もある。受講者の要望に応え「昼の講座」を開催しているところはいずれも盛況で、教訓を活かしたい。一方で、会員の多忙化、高齢化、退職などで例会が成り立たない状況が生まれている団体もある。
高齢者運動や女性運動の中で歌うサークルがつくられ、うたごえ喫茶を契機にサークルが誕生する例も数多く見られる。これらをうたごえネットワークで結び、協議会の拡大強化につなげていく条件は大きくなっている。
協議会活動では、ニュースの発行、会議の定例化、連帯・交流の取り

組みを進める中で全体として活性化している状況がある。青森では東北交流会参加を積み重ねるなかで、弘前のうたごえが新加盟、協議会の会議を持ち、青森センター合唱団が活動再開を決めた。

地域祭典や合唱発表会、交流会も、協議会の加盟団体の枠を越えて広がりを見せている。

ブロック活動では、北海道、東北、関東・東京、関西、北陸、九州では会議も開かれ、東北、関東・東京、北陸、九州ではブロック交流会や合唱発表会が開催されている。うたごえ新聞読者拡大ニュースをブロック担当で持ち回り発行にしたことで、ブロックの意識化にも一定の成果を上げた。ブロックでの連帯、支え合いが大切になっている今、これらの経験を全体に広げることが求められている。

産業別協議会にのみ加わっている団体が地域の協議会にも加盟し地域の連帯、全国連帯の活動を共に発展させるための働きかけは引き続き大切である。

［うたごえ新聞・季刊「日本のうたごえ」読者拡大］

全国の運動や識者の論評に学び、運動の質を高め、理解者、協力者をひろめ、音楽の内容を深め、新しい運動の担い手を育てるうえで機関紙誌を会員がよく読み、広げることはますます大切になっている。

読者が増えることで、魅力ある紙面づくり、多彩な情報の発信、運動の影響力の拡大が可能になる。

長崎では、日本のうたごえ祭典開催を決めた時点の約４倍の読者を達成し、祭典の魅力、うたごえの魅力を多くの人に伝え、その報道と読者拡大の経験が祭典成功の大きな力となった。

昨年の総会に向けての読者拡大の波を３月のうたごえ新聞まつりまで続け、近年最高の読者数に到達し、月１回のカラー化を実現した。「千羽鶴キャンペーン」と銘打ち、日本のうたごえ祭典＝長崎までの読者拡大をめざし、祭典後も総会に向けた読者拡大キャンペーンを継続して取り組み、昨年総会時を上回る現勢となっている。

２０１１年の日本のうたごえ祭典開催地千葉では、この教訓に学びながら意気高い取り組みが進んでいる。

うたごえ新聞をみんなのものにし、活動を前進させる力にしようと、練習時間に「今週のうた新紹介コーナー」をつくったり、機関紙に「読みどころ」を載せている例も増えている。編集長を招いてのうた新フォーラムやうた新まつりはいずれも好評で、うたごえ新聞の価値をあらためて確かめ、読者を増やす力になっている。ホームページを改善し、編集長のブログも好評である。

引き続き紙面を充実させながら、全会員の購読と、広がったつながりを読者に結ぶ取り組みを強めたい。この間前進したブロック連帯の取り組みも引き続き発展させる事が望まれる。読者を大切にする取り組みとして、配達・集金時の対話や、身近な記事の通信、地方版の発行、読者優待の企画など、経験を学びあいたい。

季刊「日本のうたごえ」は毎号の特集、連載とも好評で、会員全員購読をめざした取り組みの中で定期購読数が増えた。講習会、学習会での資料や音楽づくり、運動づくりの討論材料など、活用の仕方も工夫しながら購読者数を増やしていくことが必要である。

［郷土の歌と踊り］

日本のうたごえ祭典in長崎の開幕を飾った和太鼓合同「海のお囃子」、民舞合同では長崎市内の学校や地域で取り組まれている岩手県の「稔りの御神楽」を全国の保育士の参加もあり共に成功させることができた。

全国郷土講習会は東日本で三浦ふれあい村において６０人の参加で開催された。講習演目にうたごえ運動が継承してきた「八丈島太鼓」「鳥刺し舞い」「傘踊り」をとり上げ、講師の本場の技に触れ多くの刺激を受け、次代へつなげる講習会となった。参加者が年々減少する問題は今回も克服しきれず、その対策が急務となっている。

第１３回江戸やっこまつりが、初めて屋内を会場として４００人を越える組織と、例年通りの多彩な参加の約３０団体で大成功を収めた。

また、うたごえ合唱団の中にある郷土チームもそれぞれの地域で団定期演奏会の中でも郷土のステージを盛り込む等、特長を生かした活動を展開している。昨年はＮＰＴ・ＮＹ行動で太鼓・郷土芸能で、大きな反響をよび、神戸の太鼓衆団輪田鼓は森村誠一氏を特別ゲストに「おくのほそ道」東京公演にも取り組み注目を集めるなど、海外や他地域での演奏活動も行っているグループがある。

赤旗まつり（東京）ではうたごえ合唱団の演奏の中に和太鼓のプログラムを組み、「沖縄を返せ」では合唱と和太鼓のコラボレーションを実現し好評。福島で開かれた日本母親大会の文化企画には東北民謡の合同合唱が演奏されるなど、民謡の合唱編曲、郷土芸能と合唱のコラボレーションなどの経験も生まれている。

「全国郷土祭典（全国和太鼓と民舞のまつり）」や、郷土のうたと踊りシンポジウム、講習会の計画的開催、全国の活動の交流、研究・資料の蓄積と広報物の発行、教育資料の作成、指導者の派遣等の全国ネットワークのあり方など理論的にも実践的にもうたごえ運動の中における郷土のうたと踊りの位置づけと普及の力を見える形にしていくことが大切になっている。

方針〈１０〉 世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げる。

［国際交流］

ＮＰＴ再検討会議ニューヨーク国際行動への大代表団派遣は国際交流の点でも大きな成果を残した。労働者合唱団「ニューヨークレイバーコーラス」との合同演奏の実現と交流、通訳ボランティアで活躍してくれた音楽活動をする青年たちとの出会い、ニューヨークの多様な文化との出会いなど運動の財産を残した。

韓国との音楽交流も新たな画期の年となった。５月には３１人の代表団が、仁川で、うたごえ運動に学んだ民主的な音楽・文化運動の広がりを実感し、光州では民衆抗争３０年のメインステージでの演奏などで感動的な体験をした。三菱女子挺身隊問題を取り組む中学生らとの交流も実現し、８月には韓国から１２人の中高生を迎え名古屋でコンサートも行われた。８月の韓国強制併合１００年の行事の中に組み入れられた埼玉合唱団とハンギョレ統一文化財団平和の木合唱団とのジョイントコンサートは、これまでの日韓音楽交流の蓄積の上に立ち創造的連帯の新たなページを開いた。悪魔の飽食合唱団も同時期、昨年に続き韓国公演を行った。

日本のうたごえ祭典＝長崎には仁川市民合唱団「平和の風」から１３人の代表が参加、日本語で歌う「俺たちのシルクロード」は会場を大きな感動で包んだ。

国際交流団体の企画とも結んで、ロシアからの合唱団の招聘や、世界各国との自主的な交流も盛んである。

２０１０年日本のうたごえ祭典in長崎

総括

２０１０年日本のうたごえ祭典in長崎実行委員会

はじめに

被爆６５周年を記念し、「核兵器のない世界を！　長崎から」をテーマに、１０月１５日から１７日に開かれた〝２０１０年日本のうたごえ祭典＝長崎〟は、のべ１万１６００人が参加し、大きな成功を収め、終了

することができました。
この成功は、祭典実行委員会で決めた「基調」実現のため、賛同募金、うたごえ新聞読者拡大等の課題に全国・地元のみなさんの挑戦で達成した結果です。
祭典１日目１５日、ブリックホールでの音楽会「平和への想いつなぐ心／叫び／歌」には２０００人、翌１６日の県立総合体育館での大音楽会「いのちの歌　ナガサキから世界へ」には４８００人が参加し、いずれも満席の中で感動に包まれた音楽会でした。
大音楽会の長崎市長のあいさつ、「みなさんがこの同じ場所・時間の中で、観る・聴く人が一体となってこの場をつくっている。それは、一つの平和の姿」にもあるように、長崎からの「平和」の発信に、「Ｇｒｅａｒｔ Ｊｏｕｒｎｅｙ」「平和の旅へ」「干潟の海の詩」「青い地球を」など、祭典の基調を十分に伝えたものとなりました。
「祭典」開催にあたり、長崎県のうたごえ演奏交流会（合唱発表会）参加団体は例年の１・５倍に増え、のべ５００人を超す記念合唱団への参加、とりわけ、小学生の児童、高校生、音楽家のみなさんにうた創り・舞台づくりに力を発揮していただきました。
私たちはこの祭典を通じて出会った音楽や人々を大切にし、うたごえ運動と連帯の輪を広げ、核兵器のない世界への想いを訴え続けていきたいと思います。

経過の概要

１、２０１０年日本のうたごえ祭典＝長崎の提起～開催決定まで

被爆６５周年に日本のうたごえ祭典を長崎で開けませんかという提起が、日本のうたごえ全国協議会から長崎のうたごえ協議会（以下、協議会）にあったのは、２００７年の原水爆禁止世界大会が終わった直ぐあとでした。
実は被爆６０周年のときも同じような提起があり、論議を重ねましたが、提起から開催までの期間が短かったことなどもあり、固辞して広島開催になった経緯がありました。しかし、この時の論議は決して無駄ではなく、新たな提起を受けて協議会での論議が始まりましたが、前回と違って消極的な発言はほとんどなく、「何とかしてやりたい」「やれるのではないか」という開催への積極的な意見が多く、２００８年４月の定期総会、５月の「祭典を考える会」などの論議を経て、２００８年６月２１日に、協議会の臨時総会を開催する運びとなりました。
総会では、まず全国協議会の提起を受け入れる事を決め、「２０１０年日本のうたごえ祭典＝長崎」の基調を次の通り確認、決定しました。

五つの基調

一、「核兵器廃絶」「憲法９条を守り世界に生かす」を柱に平和を発信する祭典
二、異国文化の窓口であった長崎らしい文化の風を発信する祭典
三、環境破壊や人権侵害に抗し人間らしく生きたいと願う人々を支え励ます祭典
四、歌が好きな人々との交流を深め、連帯を拡げる祭典
五、長崎のうたごえに新しい息吹を吹き込み未来につなぐ祭典にしよう。

また、協議会内に企画部会、事業財政部会、組織宣伝部会、うたごえ新聞部会、うたう会部会を設け、協議会の全員が各部会に積極的に参加し、どのような祭典にするか、それぞれの夢や想いを出し合いながら祭典実行委員会発足の準備を進めました。

２、開催決定から実行委員会発足まで

総会後、常任委員会は、合唱発表会や大音楽会の会場調査に取り組み、稲佐山公園のイベント広場、ブリックホール、市民会館文化ホール、時津町、長与町のホールなどを候補にあげ、コンベンション協会を通して予約できるブリックホールと市民会館文化ホール借り上げの予約をしました。また、呼びかけ人や実行委員会への参加をお願いする候補者を上

げ、手分けして協力要請に回りました。

3、実行委員会発足から祭典開催まで

２００９年２月２８日、広く民主団体にも呼びかけて実行委員会を発足させました。祭典の名称を「２０１０年日本のうたごえ祭典＝長崎」と決め、祭典基調の承認を受けました。第２回実行委員会後、かねて実行委員長就任をお願いしていた長崎県保険医協会の会長千々岩秀夫氏に実行委員長を引き受けていただくことになり、同年１０月６日の第３回実行委員会で紹介しました。

２０１０年１月の新春歌う会、３月の祭典プレ企画うた新まつり＝伊王島、ＮＰＴ代表派遣の取り組みを成功させ、賛同募金の目標、うたごえ新聞読者拡大目標も達成するなど、実行委員会で決めたことを着実に実践していきました。４月には、高校生一万人署名活動実行委員会の高校生の詩を元に詩人石黒真知子氏作詞、池辺晋一郎氏作曲で祭典普及曲「一本のペンで」が完成し、メーデーや５月の「九条フェスタ」での演奏など長崎での祭典開催を大きくアピールしました。

第３回以降、７回の実行委員会（計１０回）を開き、全国協議会の祭典プロジェクトなどのアドバイスを受けながら企画、組織の取り組みを精力的に進め、全員参加、全員活動のモットーを貫き祭典を迎えました。

4、マニュアル作成にかえて

「日本のうたごえ祭典」開催という貴重な体験を今後にいかすため、祭典のあゆみと総括をもとに、別資料としてマニュアル的な文書を作成することとします。

企画のまとめ

1、基調にもとづく企画

基調にもとづいて、いかに「うたごえらしく」「長崎らしく」創り上げていくか、企画では、祭典１日目の「音楽会」は歓迎演奏「幻想曲長崎ぶらぶら」で開幕。「樺島ハイヤ節」から豊かな海の幸をまもろうと歌う「干潟の海の詩」。長崎から架ける平和・国際交流・未来の３つの橋。グループ「すまんどす」によるフォルクローレ、男声合唱、日本のうたごえ合唱団。ゲストにオペラ歌手星野恵利さん（オペラ『蝶々夫人』より）、ナターシャ・グジーさん。大合唱は池辺晋一郎氏指揮で「Ｇｅａｒｔ Ｊｏｕｒｎｅｙ 心／叫び／歌」からフィナーレ、祭典普及曲「一本のペンで」が演奏されました。

２日目の「大音楽会」では、長崎の郷土芸能、自然と暮らしをまもる歌、高齢者と被爆者のうたごえ、女性合同、ナターシャ・グジーさんと被爆地周辺の児童によるうたごえ。ゲストの韓国仁川市民合唱団「平和の風」、浅井敬壹氏指揮の「悪魔の飽食」をうたう合唱団、全国合同。四半世紀歌われてきた合唱と語りによる構成組曲「平和の旅へ」、高校生とつくった祭典普及曲「一本のペンで」等が演奏され、〝平和へのうたごえ〟が貫かれました。特に祭典を締めくくった「平和の旅へ」は全国６００人の演奏で平和の発信ができ、音楽会として、長崎らしさが十分に発揮できた内容となりました。

2、２つの音楽会企画決定に至るまでの経過概要

実行委員会で確認された五つの基調にそって、それぞれ多くの夢を語り合い、祭典の規模等を計画し、その実現に胸をときめかせました。

まず、会場の選定が検討され、「歓迎の音楽会」として、①２０００人収容のブリック・ホールが計画されました。同時にこの会場では地元の参加者が制限され、多くの人が参加（見て・聴いて）出来ないこともあり、②全国の参加者と交流し、歌って作り上げる祭典を目指す「大音楽会・フェスティバル」の会場として長崎の総合体育館で開催する、２つの会場での開催が確定しました。

3、ゲストについて

オペラ「蝶々夫人」の演出等、地元のオペラ歌手星野恵利さんの快諾

を得、また、ウクライナで被曝し、核の廃絶を訴え続けるナターシャ・グジーさんを迎えての児童との演奏、「一本のペンで」の合唱、「龍踊り」、オーケストラで出演の高校生を率いて参加された高等学校の指導者、県・市教育委員会、学校、学童保育の先生方の協力により企画をまとめ上げることができました。

企画・演出の柱として、『Ｇｒｅａｒｔ　Ｊｏｕｒｎｅｙ』『悪魔の飽食』『大地讃頌』を演奏したい」、「指揮者に池辺晋一郎、浅井敬壹両氏に是非お願いしたい」、と早くから折衝ができ、両先生の指導で大分、福岡、佐賀など九州からの参加者も含め、１８０人での長崎での練習会が実現しました。このことは、チケットの普及、祭典成功の大きな力となりました。

４、企画構成及び演出について

企画・プログラムについては、０９年５月に第１次案が提示され、祭典プロジェクトの協力を得ながら１０年７月の第９次案まで検討が重ねられ、演目が確定されました。演目にはそれぞれのユニットチームが編成され、祭典合唱団の練習、進行、演出などの取り組みが行われました。なかでも、「Ｇｒｅａｒｔ　Ｊｏｕｒｎｅｙ」「悪魔の飽食」「干潟の海の詩」「平和の旅へ」の３つのユニットは早くから祭典のメインとして取り組まれ、音楽会の中心的な役割を担い、男声のうたごえ・働くものの うたごえ、青年のうたごえ、「あの子」をうたう合唱団、女性合同、高齢者のうたごえ等にも相乗的に刺激を与え、全体を牽引することができました。

地元による「樺島ハイヤ節」「龍踊り」の郷土芸能への積極的な出演要請に務め、「稔の御神楽」「和太鼓」の全国合同については、九州・福岡、全国・名古屋、京都の仲間と練習を積み上げ舞台を作りあげました。

５、各ユニットのとりくみ

①、「Ｇｒｅａｒｔ　Ｊｏｕｒｎｅｙ」、「悪魔の飽食」合唱団

祭典の目玉となる演奏曲で池辺先生、浅井先生を指揮者に迎えての大合唱が企画され、祭典全体の牽引車として、祭典記念合唱団員の募集・練習の進行に全力がそそがれ、地元では加藤豊先生の指導で練習が進められました。

団員募集は合唱連盟傘下の合唱団や市民合唱団、市民に広く呼びかけ、２００人を超す団員が登録され、本番では地元１５０人全国で３５０人で演奏しました。

取り組みの教訓、成果については

・地元の専門家(加藤、瀬尾先生)とうたごえとのつながりがさらに広がった。

・公営掲示板に毎月ポスターを張り出した。

・合唱団ニュースの発行、練習での注意事項・諸連絡事項などを伝えた。

反面　・池辺先生、浅井先生の知名度にひかれ参加した団員も多く、合唱経験が少ないこと、月に２回しか練習会ができなかった等で、後半参加出来ない団員もでてきた。

・祭典合唱団員によるチケット普及は、祭典の意義や曲の説明、「悪魔の飽食」の詩の内容・歴史等について深めあう中で進める必要がありました。

②、「平和の旅へ」合唱団

長崎で「平和の旅へ」を是非取り組みたいとの全国祭典プロジェクト及び長崎実行委員会の強い要望もあり、２０分の短縮バージョンで祭典に組み込みました。

指導・指揮は中澤伸元先生（先生の健康の都合で）途中から加藤豊先生に、ピアノ伴奏村川千佳さんで進められ、本番は、地元１１８人、全九州１４４人に加え全国で４２人、終章「平和の鐘を鳴らそう」は５６０人の大合唱団で演奏し、平和への想い・大きな感動を多くの観衆に届けました。

なお、「平和の旅へ」の演奏は１９０回、のべ１２１４００人に届けています。被爆者が高齢化する中で、新しい団員を迎え、新しいスタイルで、音楽での語り部という〝平和の旅〟を続けていきます。

③、干潟の海の詩合唱団

諫早湾干拓事業に反対する運動の中でつくられたこの曲を、現在、排水門の開門を求めたたかっている漁民を励ます力にしたいと、漁民・地元諫早市周辺の合唱団による演奏を目指し奮闘しました。指揮は中古賀久さん、ピアノ伴奏大野陽子さん、「漁唄」のソロも地元の方にお願いし練習を進めました。(なお、地元のソロは、終盤健康上の都合で合唱団「ながせん」の碇勝房さんへ変更)

祭典間近の9月、有明海沿岸漁民の「開門」を求める漁船３００隻での海上パレード、１０月の長崎地裁報告集会ではうたごえの仲間約３０人が大漁旗を掲げて演奏し、激励しました。本番では全国・九州・地元１００人での演奏が実現し、漁民８人が大漁旗を掲げ参加し、代表の訴えが聴衆の心に届く演奏となりました。

歌った人、聴いた人からも「感動した、ありがとう」の感想が多く寄せられ、記念合唱団の懇親会では、「干潟の海の詩」を今後も歌い続けて行こうと確認されました。これら、漁民・市民と連帯した演奏、たたかいの中で諫早湾閉め切りから１３年、裁判提訴から苦節８年、祭典後の１２月、「開門」を命ずる歴史的な高裁判決を勝ちとりました。

④、働くもののうたごえ、男声合唱

５月に練習方法などについて話し合い、約７０人に呼びかけ、〝働くもののうたごえ〟と男声合唱を同じ日に同じ会場で、時間をずらして練習することにしました。指導は指揮・碇勝房さん、ピアノ伴奏寺谷陽子さんで6月から月1回のペースで練習し、本番では全国の仲間に支えられ、約１５０人で演奏することができました。ソリストの魅力も聴衆の共感を得、舞台を作りあげました。

今後の課題は、全国の歌い手登録を早く済ませること、うたごえを職場にいかに根づかせるかです。

⑤、女性のうたごえ

九州での祭典らしく荒木栄の曲から「花をおくろう」「五月の歌」に決定し、この2曲を一つの歌として、山本忠生さんと安広真理さんにアレンジを依頼し、もう1曲は長崎らしく「アンジェラスの鐘」に決定しました。大分の古野千鶴子さんの指揮指導で練習が重ねられました。地元でどれだけ参加者を増やせるか、長崎では新婦人の方を中心に大村での練習なども行いました。本番は、古野先生の的確な指導と編曲の山本さんのアコーディオンも入り、また、これまで積み上げられた全国女性のうたごえ連絡会の力を結集した３５０人の大合唱団で演奏しました。

⑥、ナターシャ・グジーさんと「あの子」をうたう合唱団

被爆者、永井隆博士の詩に、同じ被爆者であり原爆被爆の歌を日本で最初に作曲した長崎の木野普見雄氏が作曲した「あの子」が山里小学校で６０年間歌い継がれていることを全国に伝えたいと企画されました。ゲストのナターシャ・グジーさんはチェルノブイリ原発事故の被曝者であり、身をもって放射線障害を経験した人として、子どもたちと一緒に「あの子」と「ねがい」を歌ってもらうことになりました。県・市の教育委員会の後援は計画を進める上で大きな力になり、また、学童保育の先生方のご協力で子どもたちが放課後に出演という手続き上の問題も解決できました。

岩永崇史先生の指導で7月から同校で５回の練習会を重ね、本番では子ども８７人大人４５人総計１３２人で演奏しました。子どもたちが２時間も練習に集中できた姿に、学校の先生方も驚いたり、喜んだりでした。出演した先生や子どもたちから、「また一緒に歌いたい！」など多くの感動と感謝の声が寄せられました。

⑦、青年のうたごえ

３月のうた新まつり＝伊王島で長崎と全国の青年の仲間が集い、青年のステージのイメージなど話し合い、舞台作りが始まりました。子ども劇場の青年、保育士、学童太鼓、高校生一万人署名の高校生、民商の青年など広く呼びかけ、選曲も青年の多くが参加できる曲「世界が一つになるまで」「歩いて行こう」が決定されました。指揮者に長崎子ども劇場の中村結花さん、ピアノ伴奏に福岡の安広真理さんにお願いしました。

6月の名古屋での全国青年のうたごえ祭典に長崎から2人が参加し、全国の青年との交流で日本のうたごえ祭典＝長崎への全国の励ましと、期待の大きさを感じることができ、本番では全国・九州・地元の青年１０

０人が舞台をかざりました。

⑧、「幻想曲長崎ぶらぶら」合唱団

地元でさまざまな形で演奏していた「幻想曲長崎ぶらぶら」を日本のうたごえ祭典＝長崎の開幕として８３人で合同演奏（地元の合唱団、コーロ・アザレア、ハッピートーク、ローサ・アマリーア、諫早ジュニア合唱団、諫早コスモス合唱団と新婦人コーラス花の輪の６団体）となりました。うたごえの仲間と市民合唱団合同での演奏は、各合唱団での衣装、列び、演奏の方法等、異なる条件の中で、一つに束ね、先生方のポイントを得た指導と集中した練習により、すばらしい演奏となり、今後に向けての貴重な財産となりました。練習は後半９月から市民合唱団の指揮者平野かず子先生、ピアニスト大塚裕子さんで行われ、今後もこの財産を引継ぎ、歌を通しての交流を深めます。

６、祭典「普及曲」について

祭典普及曲として、長崎からの平和・被爆の実相を全国に発信しようと地元で「創作会」が開かれ、応募「詩」２０編への作曲検討が進められましたが、作曲には至りませんでした。

一方、高校生一万人署名活動実行委員会の高校生の詩をもとにした「一本のペンで」が生まれ、祭典普及曲として演奏されました。４月に曲が発表され、高校生と共に９条フェスタ、原水爆禁止長崎大会、長崎の演奏交流会等で演奏しました。未来を拓く高校生と歌で連携が広まったことは大きな財産となりました。また、高校生の祭典両日での演奏は祭典の大きな輝きとなりました。今後の核廃絶のテーマ曲として長崎での演奏会等での普及が予定されています。

７、大音楽会（総合体育館アリーナかぶとがに）での企画構成（演出）

体育館での音楽会づくりは、音響、照明、舞台装置等困難はありましたが、「よく出来てた！」と多くの感想が寄せられているように、専門的スタッフ、要員等の努力により良い舞台ができました。また、「大会場での合唱は大合唱団の確保が条件」であり、全国からの合唱団登録の取り組みも強められ、豊かな内容で構成され、各世代の出演・演出・進行等々みんなでつくる音楽会ができました。

この他、「龍踊り」、〝ナターシャ・グジーさんと被爆地の子どもたち〟、１００～６００人の舞台、オーケストラの楽器搬入、ゲストの対応等含め、多くのステージを滞りなく進行させ、成功させることができました。

全国合同企画は、当日のリハーサル、練習等時間が限られており、県、ブロック等の合同練習を積み上げ、合唱団登録を強めることが課題となっています。

宣伝・組織

宣伝について

０９年９月には１万枚の第一次チラシと大型横断幕を作成し、２００９年日本のうたごえ祭典・京都では４千枚のチラシで宣伝、引き継セレモニーでは横断幕を披露しました。２０１０年３月には合唱団募集を兼ねた二次チラシとポスターを作成・宣伝し、ＮＰＴ（核不拡散条約）再検討会議成功への署名、同ＮＹ行動派遣募金の街頭宣伝を１０数回取り組み、チラシ・横断幕、うたごえ行動隊の演奏等で市民に広く訴えました。６月以降は最終チラシ５万枚、ポスター５００枚を作成し、全国への宣伝・普及につとめ、８月以降は岳童太鼓のみなさんの笛・太鼓を交え効果的な街頭宣伝を、また、長崎市と諫早市では大型宣伝カーでの巡回宣伝を行いました。

ポスターは、市の掲示板の毎月活用、商店、民主団体、家庭、自治会、バイク、自家用車等に貼り付けるなど、宣伝と協力要請・対話などを強めてきました。

また、長崎コンベンション協会の協力で路面電車のボディ一杯の宣伝板、長崎空港、ＪＲ長崎駅到着口での歓迎看板で参加者を迎えました。

組織・チケット普及活動について

組織活動は、６月段階まで宣伝と並行した軸足を組織化に置きかえ、各サークル・合唱団には、これまでに経験したことが無い組織目標を設定すると同時に、それぞれ節を設け、目標遂行への取組みが展開されました。

「音楽会」では、座席総指定席としたことで先行した普及が強まり、全体の普及牽引の役割を果たしました。長崎での文化イベント等での集客ではこれまで経験がない数字であり、これを克服するには一周りも二周りも多くの人に訴えることが必要と９月に入ってからは「配券強化月間」とし、実行委員会参加団体、うたごえ協議会各合唱団に「祭典開催の原点に立ち返り全員の力で追求しよう！　祭典の成功・感動を分かち合おう！」との「訴え」を発し、全員の発奮で取り組みが一段と強められました。

９月後半からは、事務局員の輪番制で手作りの「ファクシミリ通信」を毎日、各団組織責任者・うたごえ協議会会員に発信し、「通信」では各団・個人の取り組みでの喜び、苦しみ、成果のヒントなどの状況を全員のものとし、苦楽を共有し目標達成に奮闘しました。その間の普及は一挙に進み、毎日５０人～１００人を突破する報告もあり、開催前日にはほぼ目標を達成させ、大きな運動の展開となりました。全国では、こうした開催地の取り組みに励まされ、地理的条件（西の端）も乗り越え、歌って参加も強め、ほぼ目標を達成しました。

事業・財政

０９年２月の、日本のうたごえ全国協議会総会後、祭典全国実行委員会で予算が確認され、０９年５月から事業・財政担当者で会議を重ね、実践してきました。事業・財政委員会の任務としては赤字を出さないため、祭典経験の先例を参考として取り組み、

Ⅰ、全体財政の管理

Ⅱ、賛同募金の推進

Ⅲ、事業物（記念グッズ）販売による資金作りにとりくんできました。

賛同募金は、開催地２５００口、全国２５００口計５０００口の目標で取り組みました。開催地が先行し、全国の強力な応援もあり、いずれも目標を超過達成しました。開催地の募金は、特別、一般の賛同金を含め合計３０００口で大きく目標を上回り、全国も３０００口を超す募金で財政の大きな支えとなりました。

事業販売は、品定め、祭典イメージデザインの検討、業者の選定に始まり、工場見学・売店見学なども行い、品定めでは見本を持ち寄り、試食したりの楽しい雰囲気の中で進めてきました。取り扱った品目は①祭典記念Ｔシャツ、②龍馬像ストラップ、③祭典記念ファイル、④かまぼこ、⑤祭典記念焼酎、⑥カステラ、⑦九十九島せんべいで、品目別の管理責任者を定め事業を推進しました。

なお、祭典ロゴマークは、呼びかけ人の一人で画家松添博氏の協力・承諾を得て、長崎らしく「龍踊り」のデザインをＴシャツ、酒、クリアファイルなどに活用させていただき好評でした。これらの事業収益は目標を達し、財政の一助とすることができました。事業物販売では収益の他「祭典」の宣伝・普及にも大きな役割を果たしました。

祭典普及曲・池辺先生の楽譜含む出版物については、祭典合唱団への一定の普及はありましたが、広く普及する点で課題を残しました。

うたごえ新聞部

４倍の読者拡大と支局化へ

０９年５月、うたごえ新聞読者が祭典を成功させる大きい力であるとの認識で、うたごえ新聞部が１０人の部員で発足し、まず、各団の読者数の確認、名簿化、拡大の目標、対象者の検討などが行われ、各団個々の取扱いを「協議会」の取扱いとすること、全体での拡大目標の設定等が検討され取り組まれました。８０数人の読者からスタートし、うたう

会、各ユニットでの普及、団員、知人に拡げ、８月の原水爆禁止長崎大会までに１２０人読者の目標を超過達成させました。また、協議会で一括管理する支局化が１０月から実施され、新聞部員による仕訳、郵送、うた新長崎版、祭典ニュース等の折り込み、各団への新聞代の請求事務などの作業が行われました。さらに、拡大目標を、３月のうたごえ新聞まつりまで、８月の原水爆禁止長崎大会までと設定し、取り組みを強めました。

紙面では、２０１０年新年号の田上長崎市長のインタビューに始まり、長崎の特集記事、また、祭典運営委員長の「長崎さるく」の連載等、身近で親近感の湧く紙面が多く、読者拡大の強い味方となりました。祭典までにさらに拡大を！とそれぞれ「節」を設け、部員を先頭に拡大を進め、祭典開催までには３１８人を達成しました。祭典終了後いくらかの減紙もあり、今後は集会、うたの広場等で宣伝活動を強め、うた新フォーラム等で意識的に読者拡大につとめ、祭典で係わった方々との絆を大切にし、引き続き３１８人の読者の峰の回復に向けて努力します。

うたう会部

祭典開催に向け、「歌が好きな人々との交流」「連帯を広げる祭典」の基調をもとに、県下各地でうたう会を開き、歌うことの喜びと歌って創る祭典を目指し、多くの人に参加をよびかける活動を進めました。

開催は長崎市を中心に、近隣の長与町、諫早市、大村市、佐世保市と県下で、１３回のうたう会を開催し、のべ１０００人の参加者と歌い交わしました。うたう会では各団からの部員で司会、伴奏、ボーカル、選曲などを行い、司会者に新しい人を担当してもらう等、それぞれ高め合っていきました。また、うたう会開催を地元のラジオ、ＴＶ局などに連絡、取材・放映もあり、祭典、うたう会の宣伝に大きな力を発揮しました。祭典のシンギングプラザでは企画、進行を担当し、祭典の盛り上げに務めました。

運営・事務局体制

実行委員会に次ぐ決議機関として運営委員会を設置し、運営の効率化を図りました。運営委員会体制は、組織・宣伝委員会、企画委員会、事業・財政委員会、うたごえ新聞部会、うたう会部会の委員長、副委員長及び長崎のうたごえ協議会常任委員、事務局員で構成し、後半は各団の運営委員が参加し、協議会全役員が参加する体制で進めました。

事務局会議は、運営委員会四役と各専門委員会の長及び事務局員で構成し、毎週（水）定例的に開催（７０回）し、運営委員会は２０回、実行委員会は２００９年２月に第１回目を発足し、隔月毎１１回開催し、方針の確認、各委員会への指導等時節に対応する検討を行いました。

おわりに

「祭典」の呼びかけ人、各団体の実行委員、ご後援いただいた県・市教育委員会および報道関係各社、そのほか「祭典」成功へ御支援ご協力をいただいた多くのみなさん！

長崎と九州は一体として取り組もうと確認され、九州合同の練習会・合宿講習会等（６回）を実施し、祭典合唱団へ多数参加する等祭典成功の一翼を担っていただいたみなさん！

そして祭典に参加された全国の仲間たちと地元のみなさん！に心から感謝の意を表し、御礼申し上げます。

また、次回開催地千葉のうたごえの５０人を超す特別要員をはじめ、全国のうたごえの連帯で祭典運営を成功させることが出来ました。私たちは、祭典で培われた多くのみなさんとの絆、財産を大切にし、サークルの連携を強め、長崎のうたごえ運動の発展と文化向上の課題に取り組んでいきたいと決意しています。

今　生きる人々へ　共感と希望の歌を

２０１１年方針

私たちは、今、日本の政治がゆきづまり、失業、貧困、格差が広がる中で、生きる思いを歌にして広げることを大切に、たたかう人びとと連帯するうたごえを起こし、「戦争も核兵器も基地もない平和な日本と世界」をめざすうたごえがどれほど求められているかを実感している。

そのために、人びとの願いや思いを歌う創作、多くの人にとどける普及・演奏、歌の広がりをうたごえ新聞や協議会で結び、うたごえの組織の拡大、次代を担うリーダーづくりと学習・教育を旺盛に展開する活動方針を持ちたい。

方針〈1〉「みんなうたう会」を旺盛に展開し、平和憲法・九条をまもりいかす〝共に生きる町づくり・地域づくり〟のうたごえを広げる。

①〝いつでもどこでもうたごえを〟を合言葉に、多種多様な形態で大勢の人とともに歌う喜びをひろげる。

・平和のうちに働き、生きる想いを歌にして、失業、貧困、格差とたたかう人びとと連帯するうたごえを職場、地域から起こす

・すべてのサークル・合唱団は旺盛な演奏普及活動を行い、全市区町村で〝みんなうたう会〟を計画を持って実践する。

②多くの人が〝こぞって歌える〟愛唱歌を創りだす創作運動を活発にする。

・失業、貧困、格差とたたかう人びとと連帯する歌を意識的に創る

・意識的な創作活動を続けている全国の取り組みから学び、〝みんなでつくり歌う運動〟を広げ、創り手を生み出し、創作活動と作品交流を活発にする。

・創作合宿の参加者を増やし、創作講習会開催の計画を持つ。

オリジナルコンサートの充実とともに「オリジナルソングブック」の活用を強める。

③歌う喜びを出発点に、いのちや音楽の輝きを人々に届ける豊かな演奏創造を発展させる。

方針〈2〉合唱発表会を地方、産業別、全国とも活発にし、歌う活動の実際を交流し、学び合い、創造の前進をめざす場にする。

①合唱発表会を協議会活動の年間活動の柱に据え、演奏・講評を通じて交流し学び合うという発表会の原点をいっそう輝かせる。広く参加団体を呼びかけるとともに、開催の仕方、運営を工夫し、豊かな交流ができる合唱発表会づくりをめざす。

②合唱発表会参加団体を１３００団体に、未開催県の今年度開催計画を持つ。

方針〈3〉地方祭典の全都道府県開催をめざし、日本のうたごえ祭典の長期開催計画を持つ。

①うたごえを起こし、新たな発展をめざすとともに、「うたごえ祭典」の役割を輝かせ、地域、都道府県、産業別、階層別祭典を活発にし、祭典運動の新たな前進をめざす。

２０１２年は、合唱発表会中心に全国交流会を開催し、各地域、都道府県、産業別での祭典を積極的に開催する。

②地球まるごと〝環境・平和・いのち〟を企画の柱に、〝つながるひろがる共感〟をキーワードに発信する「２０１１年日本のうたごえ祭典＝ちば」を全国の連帯で成功させる。

③２０１３年以降の祭典計画を持つ。

方針〈4〉うたごえ運動の魅力・歌の広がりをうたごえ新聞読者でつなぎ、〝うたごえ発ジャーナル〟を一層輝かせる。

全国の多彩な活動が豊かに交流し、運動の輪、読者の輪を広げるために、〝読み・作り・広げる〟活動を強め、ひきつづきうた新フォーラムの全都道府県開催、うた新まつりを計画し、幅広く読者を迎える。

サークル・合唱団・協議会等で、うたごえ新聞を真ん中に、紙面の感想、記事への要望を語り合い、記事をつくり、うたごえ新聞を身近に感じ合い、運動の力、広げる力にする。

季刊「日本のうたごえ」は、運動づくりのテキストとしての位置づけを高め、積極的に活用し、加盟員は全員購読を徹底し、倍加をめざす。

方針〈5〉うたごえ出版物をより多くの人にひろめる。

①すべての協議会加盟団体に事業担当を置き、事業普及活動を活発にすすめる。

②音楽センター出版物をはじめ、各うたごえ出版物の旺盛な普及活動を進める。

「一人から一人へ、草の根のつながり、連帯、共同、共感」を大切にしたCD制作の「参加型」の取り組みを今後も重視し、「うたごえ楽譜」のネット配信などすすめる。

方針〈6〉演奏・創造を発展させ、また、運動の理念を受けつぎ発展させる学習・教育をすすめ、次代を担うリーダーづくりを計画的にすすめる。

それぞれのサークル・合唱団・協議会で教育を日常の練習や活動の中で行うことを重視するとともに系統的に各種講習会への参加を強める。演奏・創造活動を豊かに発展させ交流し、批評活動や運動の理論活動をすすめ、力にしていく。

①うたごえ新聞、季刊「日本のうたごえ」を積極的に活用するなど、学習・教育活動を活発にし、次代を担うリーダーづくりを計画的にすすめる。

②各種全国講習会へのサークル・合唱団からの参加を強める。

③日本のうたごえ祭典の歌って参加の活動を地域、ブロック、産業別、分野で起こし、合同企画等への参加を強め、創造的連帯活動を前進させる。

④各協議会、ブロック等で指揮者・指導者の交流を活発にし、そのネットワークづくりをすすめる。

方針〈7〉青年サークルづくりを積極的にすすめ、次代を担う青年をたくさん迎える。

①青年の可能性に敏感に目を向け、仲間づくり、サークルづくりと団体・分野を越えたネットワークづくりを強める。

②「運動する力」「音楽する力」をつける「学びの場」を系統的につくる。

③第5回青年のうたごえ交流会（福井）を全国の連帯で成功させる。

方針〈8〉サークル・合唱団をつくり、大きくし、うたごえ協議会づくりをすすめる。また、ブロックの連帯活動を活発にするため、ブロック連絡会づくりを強める。

①サークル・合唱団を新しくつくり、サークル・合唱団員を増やす。

②合唱発表会参加団体、協議会加盟団体、うたごえ新聞・季刊「日本のうたごえ」の読者を増やすことをサークル・合唱団で討議し、目標持って計画的にすすめる。

③合唱発表会参加団体を１３００団体に、加盟団体を５００団体にし、うたごえ協議会のない県のうたごえ協議会の確立目標を持つ。昨春達成したうたごえ新聞読者の早期回復と最高時のうたごえ新聞読者めざし、さらに広げる。

方針〈９〉うたごえ運動の中での、〝郷土のうたと踊り〟の位置づけを高め活発にし、全国講習会等を充実させる。

方針〈１０〉世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げる。

おわりに

いま、わたしたちは、声をあわせ呼びかける
（この町を）、（この国）を変えよう　明日をこの手に
あたらしい時代へ　さあ、あるきだそう…（『明日をこの手に』）

昨年暮れ、東京で生まれたこの歌のように２０１１年、全国の〝この町〟を、そしてこの国を憲法が生かされ、人間らしく生き働ける国に変えていこう。

祭典開催地・千葉では、地球まるごと〝環境・平和・いのち〟を企画の柱に、〝つながる　ひろがる　共感〟をキーワードにうたごえの輪を広げていこうと準備が進んでいる。

歌で心をつなぎ、平和と社会保障・人権が脅かされる時代の中で、人間らしく生きることへの共感〝うたごえの力〟はますます求められている。その輪をひろげるために、大きく一歩を踏み出していきたい。

◆２０１１年主な年間活動

◎日本のうたごえ祭典in ちば
１１月１８日（金）～２０日（日）　千葉ポートアリーナほか

◎うたごえ祭典・交流会
青年のうたごえ全国交流会
７月３０日（土）～３１日（日）（予）福井
全国教育のうたごえ祭典＝あいち
８月１９日（金）～２１日（日）　愛知　稲沢市民会館ほか
第５６回電通のうたごえ祭典＝名古屋
９月３日（土）～４日（日）　名古屋市熱田文化小劇場
郵便のうたごえ祭典　９月　京都
医療のうたごえ全国祭典
９月１０日（土）　名古屋市
全国国鉄＆私鉄スクラム祭典（仮称）
９月１７日（土）～１８日（日）　名古屋市芸術センター
全国保育のうたごえ交流会
１０月１６日（日）　京都
東海ブロックうたごえ交流会
５月１４日（土）～１５日（日）
東北のうたごえ交流会
７月２日（土）～３日（日）　岩手　滝沢村
関東・東京うたごえ交流会
７月９日（土）～１０日（日）横浜市
北陸のうたごえ交流会１０月３０日（日）

◎講習会
全国郷土講習会
４月２３日（土）～２４日（日）　銚子市　犬吠崎ロイヤルホテル

西日本合唱講習会
５月４日（水）～５日（木）　岡山市　オルガホール
東日本合唱講習会
５月２１日（土）～２２日（日）千葉市　ハーモニープラザ女性会館
全国指揮・合唱指導講習会
６月２４日（金）～２６日（日）　松本市　あがたの森文化会館

◎全国大会・集会
３・１ビキニデー集会
２月２７日（日）～３月１日（火）　静岡・焼津市ほか
日本母親大会
７月３０日（土）～３１日（日）広島
原水爆禁止世界大会
８月３日（水）～９日（火）広島・長崎
全国保育団体合同研究集会
８月６日（土）～８日（月）群馬
日本平和大会　１１月